

月刊『WILL』

編集人 花田紀凱 様

発行人 鈴木隆一 様

貴誌 2009年9月号に掲載された記事における悪質な捏造と 当会に対する中傷への抗議と訂正の申し入れ

NHK を監視・激励する視聴者コミュニティ

共同代表 湯山哲守・醍醐 聡

[http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/
shichoshacomunity@yahoo.co.jp](http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/shichoshacomunity@yahoo.co.jp)

貴誌の2009年9月号に、「NHK・中堅 番組ディレクター」なる筆名での記事が掲載されています。その中に登場する、当会の活動内容ならびに当会の前身の「NHK 受信料支払い停止運動の会」の解散・当会への移行に関わる記述の多くは悪質な捏造・中傷というべきものです。これらの点について以下のとおり、抗議するとともに、該当箇所についてすみやかに訂正をされるよう申し入れます。

1. NHK から頼まれて要望書を提出した、との記述について

記事の中で、当会がNHKスペシャル「JAPAN デビュー - 」第1回「アジアの“一等国”」(2009年4月5日放送)について、さる7月7日付でNHK福地会長宛に「要望書」を提出したいきさつなるものを記し、「台湾問題について打つ手のなくなったNHKが『決して批判だけでない』という材料がほしいがために、『番組を応援するような要望書を出してもらえないでしょうか』と醍醐氏側にそれとなくお願いしたと聞いています」(42ページ)と記されています。

「それとなく」とか、「・・・と聞いています」などと事実確認をばかしたり、伝聞の形式を選ぶなどしていますが、当該要望書は当会の運営委員からの発議に基づいて提出することを決め、呼びかけ人・運営委員の間で案文を協議の上、確定したものを「開かれたNHKをめざす全国連絡会」(当会も参加)の代表とともに7月7日にNHKに出向いて手渡したものです。当該要望書を発案・提出するにあたり、当会のいずれの呼びかけ人・運営委員もNHKから要請を受けたこともNHKの役職員とこの件で事前によりとりをしたことも全くありません。また、この件について当会は貴誌から事前に事実確認の取材を受けたこともありません。

このようなやり方で貴誌が上記のような捏造記事を一方的に掲載したことは当会に対する悪質な中傷であり、看過することはできません。

2. 当会を“NHK 応援団”と記したことについて

記事の中で、当会を指して“NHK 応援団”(49ページ)と記していますが、これも何の事実の裏付けも示さない低劣な中傷です。当会は2007年2月8日に発足して以来、NHKの優れた番組には激励を送る一方、ETV番組改編事件等に関しては、以下のとおり、政治権力に阿ね、視聴者の知る権利に背を向けた行為と一貫して批判し、BPOの道理にかなった意見にも真摯に向き合おうとしないNHKを厳しく批判してきました。

* 2008年6月16日、「ETV番組改編事件に対する最高裁判決についての当会の見解」を公表。この中で当会は、政治家の圧力・干渉を受け、その意を忖度して番組を改編した実態を、自律的な編集などと言いくるめるNHKを厳しく断罪しています。

* 2009年4月3日、NHK問題を考える会(兵庫)と連名で「天皇・皇后成婚50周年・即位20周年記念コ

ンサート」の企画に関する質問ならびに参画の取り止めを求める申し入れを福地茂雄会長宛に提出。ここでは、極めて政治性、思想性を帯びた天皇制について、即位・成婚の節目を期して「祝意」を表する催しの主催者にNHKが加わるのは、公共放送に求められる政治的公平、不偏不党に反すると厳しく批判しています。

* 2009年5月12日、「ETV番組改編問題に関するBPOの意見書公表を受けた当会の見解、質問ならびに要望」を福地茂雄会長宛に提出。ここでも、政治家の意を忖度して番組を改編した実態を、自律的な編集などと言いくるめてきたNHKを批判するとともに、BPOの意見を真摯に受け止め、改編の過程を検証する場を設けるよう求めています。

このような経過を顧みれば、当会を“NHK応援団”などと呼ぶのがいかに的はずれな中傷であるか明白です。

3. 現代史に関わる番組制作についての当会の一貫した見解

当会は、NHKがまとめた次期経営計画(2008-2012)に関する意見募集に応じて、2008年8月30日付で5項目にわたって意見を提出しました(注)。その中で、たとえば、NHKが企画していた「坂の上の雲」のような番組「国のかたちづくり」と称して国家のありようを主権者たる個人の上に置く風潮を助長するような番組の制作・放送には強い警告を表明しました。そのうえで、長編番組というと、戦国武将の波乱の生涯や明治期の志士の群像を描くドラマに偏重してきたのを改め、現代と未来の日本と世界の進路を視聴者が考えるのに資するような現代史をテーマにした番組「近現代の侵略戦争・植民地支配の実態、沖縄戦の現実、東京裁判の実態と評価、現憲法の制定史、敗戦後の占領政策の実態など、多くの日本人が知っているようで実はよく知らない現代史を掘り下げる番組」の企画を要望しました。

さらに意見の中では、「改革疲れによる職員の非行」などといった甘えを許さない職場規律の徹底を求めるとともに、訪問集金に要する経費を「NHKを支える視聴者の声を聞く必要経費」と捉え、この制度を廃止しようとしたNHKの視聴者軽視の姿勢を批判して訪問集金を選択肢として残すよう求めました。

(注) この意見書の全文は次を参照ください。

<http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/oldfiles/NHKjikikeikaku20082012iken.pdf>

そして、最近ではNHKがテレビドラマとして放送することを予定している「坂の上の雲」に関して共同代表の湯山哲守がこの番組の危険性に警鐘を鳴らす運動の中心メンバーに加わり、醍醐聰もこの番組のエグゼクティブ・プロデューサー・西村与志木氏から届いた回答を厳しく批判しています(当会のHPに掲載したニューズレター、No. 13を参照のこと)。こうした見解は、前記のとおり、1年前に当会がNHKの次期経営計画に関して提出した意見の中で記した見解を踏襲したものです。

さらにいえば、貴誌が取り上げたNHKスペシャル「アジアの“一等国”」について当会が福地会長宛に提出した要望も、1年前に当会がNHKの次期経営計画に関して提出した意見の中で記した上記の見解「近現代の侵略戦争・植民地支配の実態・・・など、多くの日本人が知っているようで実はよく知らない現代史を掘り下げる番組の企画を求める見解」を踏襲した評価です。この意味でも、「番組を応援するような要望書を出してもらえないか」というNHKの「お願い」に促されたもの、などという貴誌の記載がいかに笑止の作り話であるかは明らかです。

4. 受信料支払い停止運動の終結に関する記述について

2007年2月8日を以て、当会の前身組織、「NHK受信料支払い停止運動の会」は支払い停止運動を終結し、会を解散して当会「NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ」に移行しました。これは当時、竹中総務相の下でNHKに対する総務省からの市場原理主義的な干渉が強まる中でNHKを取り巻く構図が、視聴者対NHKと

いう2極構造から、視聴者対NHK対政府与党・行政権力という3極構造に変貌してきたのに対応し、権力側の圧力に弱いNHKを批判・監視する一方でNHKの優れた番組（現代史を直視するドキュメンタリ番組や良質の教養・娯楽番組など）には激励を送る運動が状況に適っていると判断したことによるものです。また、当時、受信料を払う人と払わない人の不公平といったキャンペーンを振りかざして進められた受信料義務化の動きを封じるためには受信料を支払う視聴者との共同が不可欠であると判断したことも理由の一つでした。

ところが、この点の経緯について、記事では当会の共同代表の一人、醍醐聰が2007年2月3日に開かれたワーキング・プアふれあいミーティングに参加してNHKに「下にも置かぬ扱いでもてな」され、懐柔された結果、「コロッと態度が変わってしま」った（49ページ）などと解説しています。醍醐聰が当該ふれあいミーティングに応募し参加したのは本人の意思に基づくものですので、この件の具体的な経緯については別紙のとおり、醍醐が貴誌に対して提出した申し入れに譲ります。

しかし、「NHK受信料支払い停止運動の会」は呼びかけ人（当時）の合議によって、2006年12月の時点ですでに支払い停止運動を終結し、会を解散して新しい組織への移行を決めています。その後は新しい組織の設立準備を進めました。その上で、2007年1月28日には旧組織の解散と新組織の設立を同年2月8日を期して同時に行うことを会員（当時）に伝えています。また、醍醐聰は2007年1月28日に神戸で開かれた「NHK問題を考える会（兵庫）」主催の集会に招かれ、講演をした中で、「NHK受信料支払い停止運動の会」は近く支払い停止運動を終結することを決定している旨を説明しています。

こうした経過を見ても、「NHK受信料支払い停止運動の会」が支払い停止運動を終結することを決定したのは特定の個人の意思に基づくものではなく、呼びかけ人（当時）の合議によるものであること、2年前の支払い停止の時点に遡って支払いを再開することは、2007年2月3日に醍醐聰がワーキング・プアふれあいミーティングに参加する以前にすでに決定済みであったことは明らかです。

このような経過を確かめもせず、醍醐聰がワーキング・プアふれあいミーティングに参加してNHKに「下にも置かぬ扱いでもてな」され、懐柔された結果、「コロッと態度が変わってしま」ったなどとまことしやかに記述するのは当会の前身組織を貶める低劣な事実の捏造であり、厳正な謝罪を求めます。

最後になりますが、当会は今回、貴誌の記事に掲載されたような稚拙な中傷・攪乱にたじろぐことはありません。これからも「NHKを政治その他いかなる外部の干渉からも自立した、視聴者主権の公共放送に改革することを目指す視聴者運動体」（当会会則）として粘り強い運動を続けていきます。その過程では、会の名称にふさわしく、NHKの優れた番組には激励を送る一方、政治に阿たり、多様な意見を反映するという原則に背くような番組、受信料を浪費するような職員の不正等に対しては監視と毅然とした批判を向ける是々非々の運動を行うことにいささかも揺るぎはないことを申し添えます。

以上